



湯俣温泉「晴嵐荘」の 都はるみとオーディオ

執筆 甲斐鐵太郎

音楽を聴く。車でかけていたCDは面白くないものだった。「八ヶ岳シンフォニー・フォレスト」という音楽だ。機会があって家のオーディオにそのCDを載せたら面白かった。静寂を表現するシンフォニーを騒音が混じる車のなかで聴くのは音楽の持ち味を消すことだった。

クラシックのオーケストラの音は小鳥の小さな小さなさえずりを表現することがある。「八ヶ岳シンフォニー・フォレスト」はそのような音楽だった。シンセサイザーによって演奏する音楽だから彩り豊かとは言いにくい。「八ヶ岳シンフォニー・フォレスト」はそういう音楽だった。

「八ヶ岳シンフォニー・フォレスト」をかけたのは安らぎを醸すためであった。穏やかな旋律の流れはいたずらに刺激をしない。急に大音量になったりアップテンポに切り替わることがないこの音楽は、呼吸に調和し身体を緩やかな状態にする。

ユーチューブの音楽ソースを再生して楽しもうと考えてBOSEの小さなアンプと金網で囲われた本ほどの四角いスピーカーにアンプを組み込んだ大ぶりのウーハーの組み合わせで使った。パソコンのスピーカーの音とは比べものにならない良い音がでる。

これを弾みにパソコンを据えてあるところにはオーディオを配置した。ノートパソコンを持ち運んでは機器につないで音楽を聴きユーチューブの動画もみる。

捨ててしまおうと考えていた小さなスピーカーを鳴らすとモヤッとしている。それならばと少し大きいのを持ち出す。なかなか良い。ヤマハのスピーカーの名のとあったのは素人のオーディオファンを満足させるには十分だ。

アンプは10台をこえる数がある。一人では持ち上げることができないほどのNECのアンプは別荘に運ぼうと玄関先まで移動したが何年もそのままだ。

組合わせて使うヤマハの30cmウーハーが組み込まれた1000という数字のスピーカーは単体で31kgもあるから2階にはとても持ち上げる気力はない。アンプも重すぎるから同じだ。素直な音のこのアンプと30cmウーハーが付いた金網の保護が付いたのを組合わせて使っていた。スピーカーは家具の上に隙間があったので横にしてあった。降ろすのも面倒だからアンプは下において使うことになりそう。置き場がないとはいえ重いスピーカーをよくも持ち上げたものだ。火事場のバカ力であった。

オーディオと音楽のことで印象深いことがある。

北アルプスの裏銀座コースを富山側から歩き、薬師岳(やくしだけ、標高2,926m)に登って雲ノ平に降りてテント泊した。これが2泊目。真上で雷が炸裂する夜を過ごすのは気持ちの良いものではなかった。雲ノ平から黒部五郎岳(くろべごろうたけ、標高2,840m)をへて三俣蓮華岳(みつまたれんげだけ、標高2,841m)に登った。テント泊がつづく疲労する。山が嫌になって行程を半ばにして伊東新道を青嵐荘まで下った。

伊東新道はこの夏の下山から4年後には廃道となった。登山地図に明瞭に記載された登山路であるから道の荒れ具合に首をかしげた。伊東新道を下ったのは1979年の夏のことである。このときすでに廃道といってもよい状態であった。川沿いの高巻は傾斜がきついうえに踏み跡がない。砂が崩れば遙か下の湯俣川に墜落する。ザイルの携行などない登山であるから運を天に任せての下山であった。現在(2018年8月現在)伊東新道を再建する動きが伝えられているが、伊東新道の現状ルートが途中でとぎれている。

湯俣温泉の晴嵐荘の空には青空が広がっていた。晴れた午後の山小屋で心地づいた。

晴嵐荘では都はるみのレコードを大音量で流していた。CDのない時代である。レコードから直に音を取っていたのかテープを回していたのかは覚えていない。ずっと都はるみなのである。音楽はよいものだった。それは娯楽はよいということなのかも知れない。晴嵐荘の老夫婦は都はるみ好きなのである。そのオーディオはどのような内容のものだったか覚えていない。誰はばかりことなく大音量で都はるみを流しているその無邪気さがよかった。婆さんが「あなたのお母さんは身体が大きな人でしょう」といった。その通りなのだが何故わかるのだろう。晴嵐荘は代替わりして営業している。湯俣温泉はで営業しているのは現在は晴嵐荘だけである。

宿泊者に昆虫好きの青年がいた。虫をひよいとつかまえて何々と説明する。虫をみるために晴嵐荘に滞在したのだろう。晴嵐荘を下ったところに葛温泉があり、その先に高瀬ダム。高瀬ダムは大町につながる。

槍ヶ岳から穂高岳に向かう登山を途中でやめて大町方面への湯俣温泉に下った。余った日数を葛温泉でくつろいだ。大町は立山登山、剣岳登山ほかで何度も足を運ぶことになった。

(写真と文は甲斐鐵太郎)

TANITA デジタルスケール
見やすいバックライト付大型表示 (TL-280)
¥33,000(税抜)



計測と科学
毎週日曜日発行
日本計量新報社

東京都千代田区神田錦町3-11-8
(武蔵野ビル)
〒101-0054 TEL 03-3295-7871
FAX 03-3295-7874

http://www.keiryu-keisoku.co.jp/

振替口座 00140-5-12935
購読料年間25,000円(消費税別)

定量計量専用機



速くハカル、

楽にツメル



Yamato

大和製衡株式会社 tel:078-918-6577
http://www.yamato-scale.co.jp/

今週の主な記事

- ① フォトエッセイ 湯俣温泉「晴嵐荘」
- ② パブコメ(意見募集)の結果公表
- ③ 計測計測関連企業 第1四半期決算(2)
- ④ 計量制度・適正計量管理事業所の留意事項
- ⑤ NMS研究報告 寄稿
- ⑥ 岐阜 津津X線装置が未来技術遺産
- ⑦ 新製品、インターメジャー、計販連総会開く
- ⑧

新しいコンビ機の登場です。

新しい金属検出機、ウェイトチェッカをお届けします。



二つの新技术を一台の中に省スペースで実現

金属検出機付 ウェイトチェッカ WCMシリーズ

A&D 株式会社 **エーアンド・デイ**

本社/〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-23-14 Tel.03(5391)6128(直)
札幌011-251-2753/仙台022-211-8051/宇都宮028-610-0377/東京北048-592-3111
東京南045-476-5231/静岡054-286-2880/名古屋052-726-8760/大阪06-7668-3900
広島082-233-0611/福岡092-441-6715 <http://www.aandd.co.jp>